

山梨県山中湖におけるコブハクチョウ個体識別管理の取組み



コブハクチョウ群飼育の
適正管理を目指して

コブハクチョウ調査グループ

○加藤 ゆき(神奈川県博) / 葉山 久世(かながわ野生動物サポートネットワーク) / 篠田 授樹(地域自然財産研究所) / 菊池 博(横浜市金沢動物園)

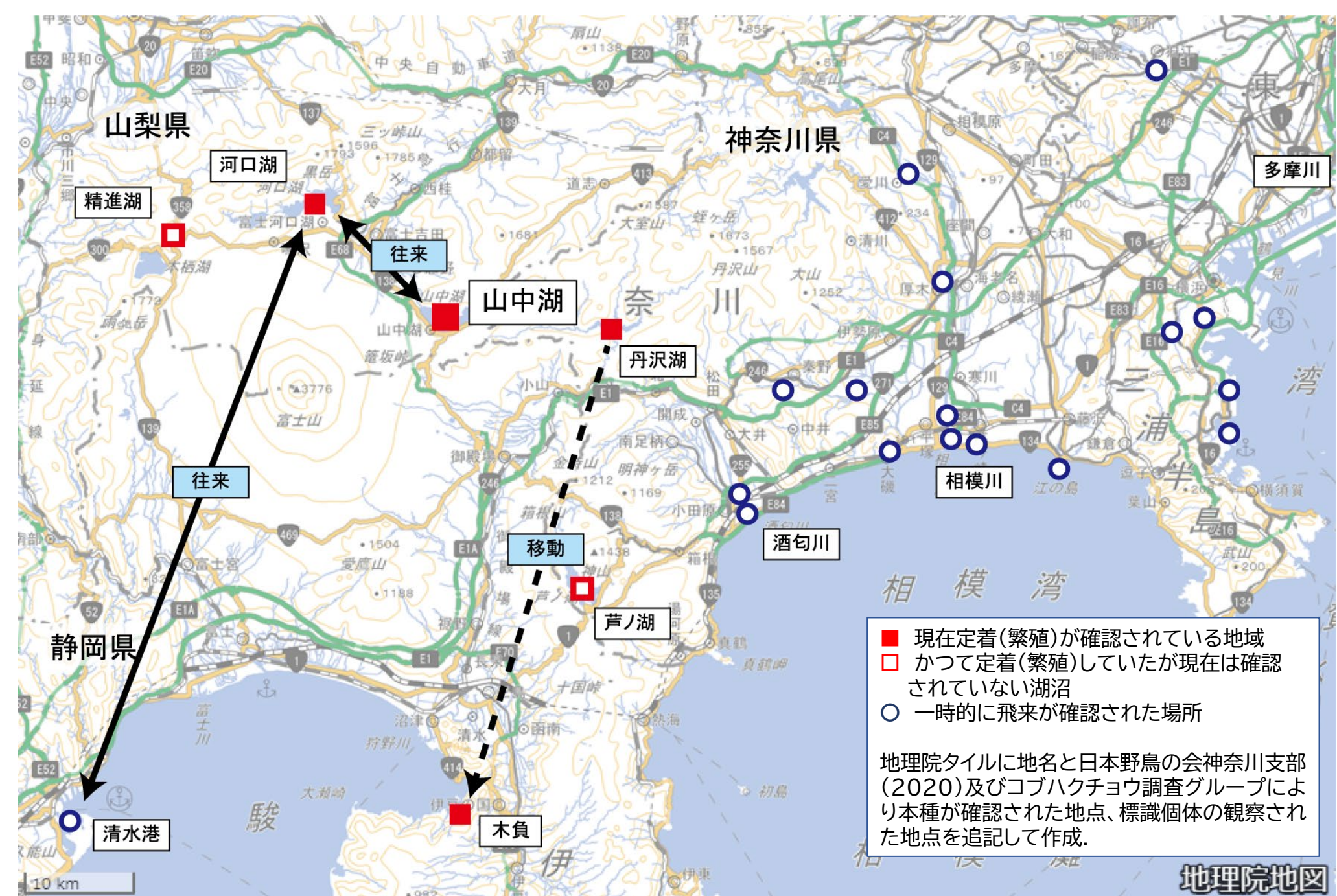
コブハクチョウの野生化と山中湖の状況

- ◆ 野生個体はユーラシア大陸の中緯度に分布。
- ◆ 日本では、飼育・鑑賞目的でヨーロッパから輸入された外来種。
- ◆ 導入から約50年を経て各地で野生化。
- ◆ 全国に少なくとも500羽が生息。茨城県牛久沼、利根川流域、千葉県手賀沼の周辺で、国内で最も大きな集団が見られている※1。
- ◆ 山梨県山中湖の群れは、国内の大きな集団の1つ※1。1968(昭和43)年2つがい4羽を湖に放し、飼育を開始。
- ◆ 50羽程度が生息していると推測。ほぼ毎年繁殖。ヒナの生存率は約30%、捕食者はカラスやキツネ(山中湖村担当者談)。
- ◆ 山梨県河口湖、神奈川県丹沢湖で行った野生化コブハクチョウの標識・追跡調査(2021~2025年)により、繁殖及び湖沼間の移動を確認。
- ◆ 湖沼間移動を受け、山中湖村では個体識別管理を計画。委託を受けた発表者らが2024年度より足環装着を開始。その結果、成鳥サイズの個体だけでも**70羽以上**いることが判明。

※1 コブハクチョウ全国カウント調査2022-2023年,バードリサーチ調べ



山梨県山中湖のコブハクチョウ。人との距離が非常に近くカモ類と同所的に生息。



神奈川県及びその周辺地域における野外でのコブハクチョウの分布状況。

神奈川県及び山梨県のコブハクチョウの生息状況をまとめた報告は神奈川県立生命・地球博物館のWebサイトでご覧いただけます。



加藤ゆき, 2023. 日本で見られるコブハクチョウは在来種? 外来種? 自然科学のつばら, 29(4): 26-27.

生態系・社会への影響

- ◆ **水草の食害**: 水草だけではなく、水棲生物への影響が懸念される。
- ◆ **農作物被害**: 千葉県ではイネへの食害が発生。成鳥には捕食者が少なく長寿のため、被害が長期化する恐れあり。
- ◆ **餌付け問題**: 容易に餌付けされ、餌付け群は人との距離が近い。
- ◆ **H5N1感染のリスク**: ウイルスの自然宿主である野生のカモ類と同じ水系を利用。飼育施設ではたびたび大量死が発生。

山中湖のこれまでの管理

- ◆ 無標識で正確な羽数は不明、飛翔抑制はしていない。
- ◆ 利用場所や湖沼間移動も不明。給餌をしているが、量は暫定的。
- ◆ 営巣時に捕食者から守る囲いを人が設置。



コブハクチョウは「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」掲載種。野生化個体を減らし、分布拡大を防ぐ対策が求められている。→山中湖での個体管理は重要!

足環装着(標識)による個体管理を実施

- ◆ 2025年10月までにのべ70羽(うち再装着3羽)に足環を装着。
- ◆ 少なくとも5羽は未装着。
- ◆ 標識時に各個体の計測・計量を実施。今後の個体管理(成長具合の判別や健康管理)や足環作製の参考資料として活用。



右足にオリジナルの足環を装着



リバッター(工具)を用い、ピンで留める方式を採用



アルミ合金製・厚み1.5mm
観光利用に配慮した深緑色

問題発生! 足環が読めない

- ◆ 足環がきつい、かじる問題が発生
- 環境省リング(内径26mm)を参照し作成したが、足の断面が楕円形のために長径はゆるみが足りてないことが判明。足環を気にして頻繁にかじることで、表面の数字が読めなくなるケースが続出。

改良

- 改良点1 文字部分をルーターで深く彫り込む。
- 改良点2 スペースで内径を拡張。
- 改良点3 装着後にプライヤーで楕円形に整える。

経過観察中



かじられた足環



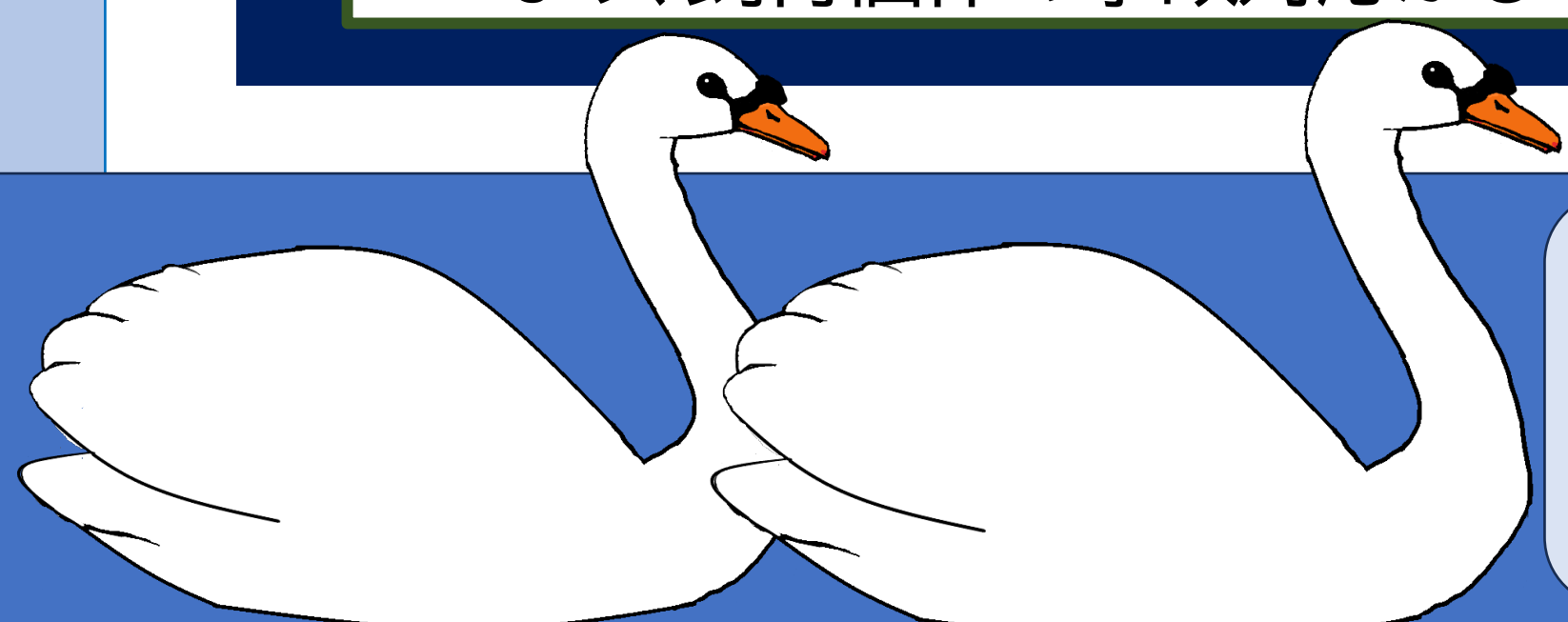
ルーターで深く彫り溝に塗料を入れた

標識で期待される効果

- ◆ 科学的な根拠を持ったモニタリングが可能
 - ✓ モニタリングで得たデータをもとに、コブハクチョウの飼育管理、山中湖の環境保全や観光利用に必要な対策を講じることができる。
 - ✓ 個体管理の重要性を地域の人々に発信することができる。
- ◆ 飼育個体とそれ以外の個体(他地域からの移動個体)が区別可能となり、飼育個体の事故対応がしやすくなる。

今後の計画と最終目標

- 今後の計画
- ◆ 2026年3月までに全羽を標識。
 - ◆ できる限り足環を改良し、刻印が読み取れるものにする。
- 最終目標
- ◆ 個体ごとの情報を記録し、生息総数や移動実態の把握、繁殖管理、感染症予防、傷病対応といった適正管理を行う。
 - ◆ 山中湖におけるコブハクチョウ飼育に関する様々な課題を地域の中で解決していきける体制を作る。



コブハクチョウを見かけたら、足環の有無にかかわらず、情報をお寄せください!

- 教えてほしい情報
 - ・観察日時・場所
 - ・足環・首環の有無と番号
 - ・羽数
 - ・(あれば)写真 など
- 連絡先
 - 神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員 加藤ゆき katoy@nh.kanagawa-museum.jp
 - コブハクチョウ標識調査グループ kobuhakuring@gmail.com